

NET 1kg
粉状

●効果と特徴

- ①リン酸を含んだブレーキ役の葉面散布資材。
- ②リン酸をMリンカリンで発酵処理しているため、即効性と吸収性が高い。
- ③リン酸だけでなく、マグネシウムや鉄、ホウ素、マンガンの微量要素も含まれている。
- Pフォスタの利用法
- ①窒素過多の解消

長雨・日照不足により窒素の消化が滞り、軟弱徒長や病気を起こしやすくなってしまう。

500倍液 2～3回連用

②糖度・着色向上

収穫期に散布することで光合成が促進され、糖分の生成が促進され、糖度着色が向上する。

300～500倍液 2～3回連用

③花芽分化・着花・結実促進

Pフォスタは、栄養生長に適度にブレーキをかけ、花芽分化・結実を助ける。特に日照不足時には積極的に散布する。

500倍液 2～3回連用

④発根促進

初期生育においてPフォスタで光合成作用を応援すると発根が促される。発根促進は、根で

生成されるホルモン（アブサイシン酸・サイトカイン）の濃度が高まる。これらのホルモンの働きによって作物の生殖生長が促進させる。その結果、花芽分化・着花・結実が促進される。

800倍液～定植後から連用

④育苗時の徒長抑制

本葉1枚目から散布することにより、軸が太く根量のあるコンパクトな苗に仕立てることができる。特に夏に育苗を進める秋野菜には効果が大きい。

Pフォスタは他の葉面散布材との混用がしやすく、各作物の生育ステージ全般にわたって応用散布ができる。

Pフォスタ 使用法一例

	生育ステージ	時期・目的	希釈と混用	使用回数
果菜類	育苗時	本葉1枚以降	1000倍液	2～3回、5～7日おき
	初期生育	定植後の徒長抑制・発根促進	600～800倍液 リーファップCa 600倍液	連用、5～7日おき
	収穫頃～	日照不足対策 花芽分化促進 窒素過多解消	500倍液 リーファップCa 500倍液 リーファップV3 500倍液	連用、5～7日おき 日照不足・窒素過多時は 2～3日おき
	収穫前	品質向上	300～500倍液	連用、2～3日おき
蔬菜 結球 花野菜	育苗時	本葉1枚以降	1000倍液 リーファップCa 1000倍液	2～6回、5～7日おき
	初期生育	定植後の徒長抑制・発根促進	600～800倍液 リーファップA 800倍液	連用、5～7日おき
	生育中期以降	日照不足対策 窒素過多解消 品質向上	500倍液 葉色低下時は、 リーファップN 500倍液	連用、5～7日おき 日照不足・窒素過多時は 2～3日おき
根菜類	初期生育 (出芽後)	徒長抑制 発根促進	800～1000倍液	2～3回、5～7日おき
	生育中期以降	日照不足対策 窒素過多解消	600～800倍液 葉色低下時は、 リーファップN 500倍液	連用、5～7日おき 日照不足・窒素過多時は 2～3日おき
	収穫前	転流促進	300～500倍液	連用、5～7日おき
花卉類	育苗時	本葉1枚以降	1000倍液	連用、5～7日おき
	初期生育	徒長抑制 発根促進	800～1000倍液 リーファップCa 800倍液 リーファップA 800倍液	連用、5～7日おき
	花芽分化期	花芽分化促進 日照不足対策 窒素過多解消	500～600倍液 リーファップCa 500倍液 リーファップA 500倍液	連用、5～7日おき 日照不足・窒素過多時は 2～3日おき
	花器発達期	品質向上	500～600倍液	連用 5～7日おき
果樹	萌芽期	花質向上	500倍液	2～3回 5～7日おき
	新梢停止期	伸長抑制 生殖生長へ転換 生理落果軽減	500倍液 リーファップCa 500倍液	連用 5～7日おき
	成熟期	糖度・着色向上 鮮度保持向上	500倍液	連用 5～7日おき
	落葉期	転流促進	300～500倍液	連用 2～3日おき